

## 夏休みが始まります

暑い日が続いています。子供たちの登校の様子を見ていますと、保護者の皆様が熱中症対策を講じながら学校へ送り出しているのを感じます。平素は本校教育活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。

7月5日には、学習参観と懇談会を実施しました。暑い中、廊下からご覧になる保護者の方がいらっしゃるほど、多くの方に参観していただきました。ありがとうございました。本校の子供たちは、研究授業や教育実習等で「参観される」ことに慣れていて、多くの参観者がいても、普段通りの姿を見せてくれます。しかし、学習参観では、いつも以上にうれしそうな表情をしている児童が多く見られました。やはり、お家の方に見ていただくことがうれしいのだなと感じました。また、6年生の参観では、附属学校園後援会のご支援で実施できた「キャリア教育」をご覧いただきました。元 J リーガーの村田和哉氏を迎え、講演を聞きました。夢を持つこと、あきらめないこと、人生は考え方や捉え方が大事であり、マイナスなことが起こってもそれをプラスに捉えることができたなら人生はきっと面白くなること、人生は良い方向にしか進まないこと等、やる気が出て元気になるお話をいただきました。困難なことにぶつかったときに、村田氏の講演が心の支えとなることと思います。



明日から夏休みが始まります。生活が大きく乱れない程度であれば、夜に星空を眺めたり、朝早く起きてカブトムシ探しに出かけたり、たまには目覚まし時計をかけずにゆったり寝てみたり・・・長期の休みだからこそできることを家族でゆったりと楽しんでいただければと思います。8月23日に元気な皆さんに会えることを楽しみにしています。

## 学校から発信する文書について

学校から様々な文書を発信しています。その中の一つに学級通信があります。先日、子供たちの七夕の願い事を紹介する学級通信がありました。児童が家族を思う優しい気持ちを表現していたところ、間違った表記で発信してしまい、当該児童、ご家族の皆様にご不快な思いをさせてしまいました。また、その学級通信をご覧になった方々にも不快な思いをさせたことを深く反省しています。申し訳ありませんでした。今後は同じ過ちを繰り返さないよう細心の注意を払い、学校のチェック体制を確立し、正しい表記で文書を発信することに、全教職員で心新たに努めて参りたいと存じます。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## やまのこ体験学習・修学旅行で「おもいやり」「つながり」「ちょうせん」

6月24～25日には、4年生が葛川少年自然の家で「やまのこ体験学習」、7月10～12日には、6年生が広島県で「修学旅行」を実施しました。どちらも数日前の天気予報は悪天で、活動ができるか心配でしたが、曇り空で暑さも和らぎ、無事に予定していた活動をする事ができました。

やまのこ体験学習では、アマゴつかみ、ナイトハイク、焼き杉等自然の中での活動を存分に楽しみました。帰ってきた子供たちに感想を聞きますと、アマゴをつかんで食べたことが印象に残っているようでした。命をいただくことを実感したようです。

修学旅行では、寝ている間に大雨が降り、朝になるとさわやかな風が吹く曇り空でした。6年生児童が、「日頃の行いが良いからな」と話していました。4月から学校のリーダーとして活躍する場面が蘇り、思わず「うん、うん」とうなずきました。広島城と平和記念公園見学、被爆体験者の方の講話、灯籠づくり、平和記念資料館見学等、平和について多くのことを学び、様々な思いを深めました。また、フィールドワークでは、グループ活動を行いました。初めて来たであろう土地で、地図を片手に広島電鉄に乗って目的地に向かう姿は、「さすが附属小学校の6年生」と感心しました。平和についての学びを深め、自分で考えて行動したり友達のことを想う気持ちを大事にしたりする姿が様々な場面で見られるよい修学旅行となりました。

保護者の皆様には、宿泊の準備等ご協力をいただき、ありがとうございました。



池でアマゴつかみをしました。



干潮で、鳥居の近くまで行くことができました。

## 校内研究会の充実 子供たちの学びに繋ぐ

7月2日には、上智大学の奈須正裕先生を迎え、教職員の校内研究会を実施しました。奈須先生は、現在の学習指導要領（各学校で教育課程を編成する際の基準）の編集に携わっておられた方で、本校にかかわっていただき、今年で3年目になります。当日は、6人の教官の授業を見ていただき、ご指導をいただきました。教科の神髄を突く鋭い指摘に、教職員がこれまでの取組を振り返るとともに、これからの授業について考える機会となりました。教職員が自分と向き合い、自分を高める時間（研修）を大切にすることが、子供たちの創造力を引き出す魅力的な授業に繋がると考えます。子供たちが学習に夢中になる姿、きらきらと輝く瞳を想像しながら、今後も自己研鑽に努めたいと思います。



（文責 齋藤 昌代）